

新しい発見がある可能性は十分にある



みなさん、こんにちは。今月で私が八百津町へ来て19年が経ちました。これから20年目に入ると思うと、本当にビックリ！もともと八百津町の国際交流員としては一年間の契約で、とりあえず一年間だけ八百津町で生活するつもりで来ました。でも月日が流れるのは早いもので、気付いたら自分でもすっかり八百津町民になったのではないかと思うくらい、ここでの生活に慣れた気がします。

自分を八百津町の人だと思うのは1ヶ月間イスラエルへ帰った時に八百津町の自然が恋しくなった時や、お祭りの時に大船神社へだんじりが上がる瞬間に心が打たれる時です。変な外人でしょ(笑)

仕事でも、日本人のお客さんの前で杉原さんの話をする時にイスラエル人としてよりも八百津町の人として話している時にとっても強く感じます。

こんな私ですが、八百津町内にいる時は自分が外国人であることを意識をせずに暮らしていますが、一歩外へ出ると、私のことを知らない日本人から外国人扱いされて面白いこともあります。時々腹が立つこともあります。たくさんあったエピソードの中から3つ選び、お話しします。

息子が高校に入学した時の話です。体操服を買いに行った時に私は丁寧な日本語で「みなさんは大体、何セットを買われますか？」と尋ねると、店員さんが「2セットです。ツー！ツー！」と指を2本立てて、分かりやすく答えてくれました。(書きながら思い出して涙が出るくらい笑ってしまいます・・・)

2つ目は、何年か前に母と朝早く電車に乗った時に、知らずに指定席に座ってしまいました。しばらくしたら一人のおばさんが電車に乗ってきて、私たちが座っていたところまで来ました。手に持っていた券と席の番号を確かめながら困惑した表情で私に向かって、仕草を付けながら

「スタンド・アップ！」(「立って！)」と命令されました。あまりにもビックリして、腹も立ったので謝りもせずに席を立ちました。あのおばさんが私の顔を見ただけで「日本語が分からない人」と勝手に決め付けたのです。そう決めつけられた私はとても不快な思いをしました。こういった時は、無理に英語で話さず、「日本語がわかりますか？」と言声をかけた方が親切で思いやりのある対応だと思いますか？

そして、八百津町へ来て8年目にこんなこともありました。ある学校へ書類を頼みに行った時の話です。事務の先生と教頭先生は私が頼んだ書類を探してくれたけど見つからなかったので、教頭先生が「どうせ読めないから」と、あきらめようとしてしました。あの時も今も、日本語を完璧に覚えていないかもしれませんが、努力はしてきましたので、この言葉は私にとって衝撃的でした。しかも先生という立場の人に言われて・・・本当に悲しかったです。

これらは私の実体験ですが、みなさんには同じような経験がありませんか？

みなさんには、こういった経験がありませんか？相手の顔や肌の色などでいろいろ思い込んだり、決め付けたりすることがないでしょうか？

外国人の場合だけではなく、自分の前に立っている人も同じ人間で、いろいろ感じるのも同じです。言葉が通じないこともあるかもしれませんが、焦らずに接してみると新しい発見がある可能性は十分あります。ぜひみなさん、自分と違う人と接する機会があったらこのことを忘れずに接してみてくださいね。驚くほど良い経験になると私は信じています。

ハニトさんへの質問は

hanito@town.yaotsu.lg.jpまでどうぞ！